

森林やまがた

No.206

2023. 7



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

森林環境税と森林環境譲与税について	2
令和5年度森林整備関係事業 (国庫補助事業)の概要	3
やまがた緑環境税による森林整備	3
山形県林業士認定証が交付されました!	4～5
やまがた森の感謝祭2023・ 第73回山形市植樹祭を開催	6
国有林から ブランド材前森スギの供給開始	7
みどりのページ 令和5年度緑の環境づくり推進事業 助成金について	8
令和5年度緑の募金運動 スターティングセレモニーを行いました	9
「やまがた絆の森づくり」事業 (資金提供型)について	10

森の人物紹介 芳賀 泰典さん・松田 泰之さん	11
センタートピックス クマハギ被害マップの活用による 防除のための被害予測	12
フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から 令和5年度 第8期生入校	13
「村山地域山火事防止啓発ウィーク」を実施	14
白炭窯“くど”調整機の開発について	14
遊学の森オリジナル体験プログラムを開発	15
庄内地域の山地災害危険地区への取組み	16
山形県の古木・名木 上倉山のクロベ(朝日町)	17
丸太価格・製材品価格の推移	18

(表紙写真: 6月3日開催のやまがた森の感謝祭2023・第73回山形市植樹祭での森づくり宣言)

森林環境税と森林環境譲与税について

はじめに

森林環境税及び森林環境譲与税は、温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、国民が等しく負担を分かち合つて我が国の森林を支える仕組みとして、平成31年4月に創設されました。

◆森林環境税

個人住民税均等割の枠組みを活用し、市町村が個人住民税均等割と併せて賦課徴収を行うもので、令和6年度から課税され、課税額は一人年額千円とされています。

森林環境税は、地方の固有財源として、譲与税特別会計に繰入れしたうえで、市町村及び県に対して、森林環境譲与税として譲与されます。

◆森林環境譲与税

森林環境譲与税については、法令上用途を定めており、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用並びに県が行う市町村による森林整備に対する支援に関する費用に充てること

とされており、森林経営計画制度の施行とあわせ、森林環境譲与税は令和元年から譲与されています。

◆森林環境譲与税の活用状況（令和3年度）

1 市町村の取組み

県内市町村の譲与税額は合計で約4億6千万円、このうち事業への活用額は約2億8千万円となり、活用率は約60%（全国平均64%）となっています。

① 森林経営管理法関連事業

森林経営管理制度に関連した取組みは、森林所有者の意向調査の準備（30市町村37%）、意向調査（10市町村10%）、森林整備（2市町村2%）、専門員の雇用（2市町村1%）となっており、事業費合計約1億4千5百万円（49%）となっています。

② その他の事業

森林経営管理法関連事業以外の活用状況は、木材の利用普及（10市町村20%）、森林整備（14市町村10%）、路網整備（11市町村20%）等となっており、事業費合計約1億5千万円（51%）となっています。

令和4年度は、市町村と県、東北森林管理局が共同で行う航空レーザ測量や林道の維持修繕等の活用が進み、譲与税額を上回る実績となることが見込まれています。

2 県の取組み

県への譲与税額約8千万円のうち、活用額は約6千9百万円、活用率は約85%（全国平均88%）となっています。

具体的には、市町村の支援として、森林経営管理制度を推進するための推進協議会の開催、市町村への専門スタッフの訪問などの実践的なサポート業務、森林クラウドシステムを用いた地域の森林資源情報の効率的な共有を行うほか、林業事業体に対する高性能林業機械のトライアル支援や人材の育成等を行いながら、森林経営管理制度の円滑な実施に向けた条件整備などに活用しています。

◆おわりに

森林環境譲与税の利用状況の詳細については県や各市町村のホームページをご覧ください。令和6年度から森林環境税の課税が始まることから、市町村と連携し、森林環境譲与税の効果的な活用と、取組みの成果や効果のPRについて積極的に取組んで

まいりますので、関係者皆様の御協力をお願いいたします。

山形県内市町村における森林環境譲与税の活用状況（令和3年度実績）

単位：千円

	森林経営管理法関連事業						その他					合計	左のうち譲与税分
	意向調査の準備	意向調査	集積計画	森林整備	専門員の雇用	小計	木材利用・普及	森林整備	路網整備	その他	小計		
事業費	108,679	28,760	0	4,450	3,199	145,088	57,692	30,339	60,441	1,763	150,235	295,323	278,183
市町村数	(30)	(10)	(0)	(2)	(2)	-	(10)	(14)	(11)	(3)	-	-	-
全体事業費に占める割合	37%	10%	0%	2%	1%	49%	20%	10%	20%	1%	51%	100%	-

〔県森林ノミクス推進課〕

令和5年度森林整備関係事業

(国庫補助事業)の概要について

●はじめに

県では、森林施業支援事業などの国庫補助事業を活用し、再造林や保育、間伐材生産等に対する支援を行っています。

令和5年度の予算、各事業の概要は次のとおりです。

●県予算の状況について

林野公共である森林施業支援事業の県予算額は、約6億1千万円になっています。また、非公共の林業・木材産業循環成長対策事業については約3千万円、令和4年度の国の補正予算に伴い措置された合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業については約1億4百万円となっています。

●森林施業支援事業について

森林の有する多面的機能を発揮させるため、森林施業の集約化や路網整備を通じて施業の低コスト化を図りつつ計画的に行う、再造林や下刈り等の保育、間伐等の森林施業とこれと一体となった森林作業道の開設等への支援を行うものです。

●林業・木材産業循環成長対策事業について

意欲と能力のある林業経営者に森

林の経営・管理を集積・集約化するとともに、川上から川下までの連携による生産・加工・流通コストの削減を図る取組みへの支援を行うものです。

主伐・再造林を進めるためには造林コストの低減が重要課題になっていますが、一貫作業システムの導入など、低コスト化の取組を現場レベルに定着させるための支援が今年度から新たなメニューとして加えられています。

●合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業について

国際競争力強化に向け、体質強化計画の事業対象区域において、路網整備と搬出間伐を実施し、合板・製材・集成材工場に対して低コストで安定的に原木を供給する取組みへの支援を行うものです。

●おわりに

県では引き続き、やまがた森林ノミクスの加速化や森林吸収源対策を図るため、計画的な主伐・間伐や、伐採後の再造林を着実に実施し、森林資源の循環利用を推進してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

森林環境緊急保全対策事業

「やまがた緑環境税による森林整備」

◎森林環境緊急保全対策事業

やまがた緑環境税を活用した森林整備は、平成19年度から実施しており、平成28年度までの10年間で約1万1,800ha整備しました。平成29年度からは、令和8年度までの10年間の目標を前10年間と同じ1万1,600haに設定し、引き続き森林整備を実施しております。

① 荒廃森林緊急整備事業

荒廃のおそれのある人工林の間伐のほか、活力が低下している里山林の森林病害虫などによる被害木伐採等の森林整備を行っています。令和4年度は889haの森林整備を実施し、令和5年度は1,187haの森林整備を行うこととしています。

② 森林資源再生事業

森林の有する公益的機能の維持増進等のために、再造林に要する経費の一部を支援しています。令和4年度は国庫補助事業に嵩上げし、森林所有者の負担なく再造林できる仕組みを継続し、89haに対し支援を行いました。令和5年度は国庫補助事業への嵩上げ補助のほか、国庫補助事

業の補助要件外となっている小面積林地で再造林を行った場合の、苗木購入経費の全額支援も継続します。

また、新たに森林経営計画の面積要件に満たない場合に、標準経費の70%まで嵩上げ補助を行います。

③ 森林資源循環利用促進事業

人工林における間伐材等の低質材を、集成材の材料やバイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、木材の利用促進を図ることとしており、令和4年度は低質材約4万2,541立方メートルに対し支援を行いました。令和5年度は、5万立方メートルに対し支援することとしています。

◎おわりに

令和4年度の実績については、令和5年3月20日発行の森林やまがた増刊号で詳しくお知らせしておりますのでぜひご覧ください。

今後とも、やまがた緑環境税を活用した森林整備を着実に進めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

山形県林業士認定証が交付されました！

◆はじめに

令和5年4月20日（木）に、山形県庁講堂で「山形県農業者・林業士認定証交付式」が行われ、新たに林業士と認定された方々に、吉村知事から認定証が交付されました。

◆山形県林業士とは？

県では、優れた林業後継者等の育成と地域の林業・木材産業等の発展に資するため、林業経営や木材産業等の振興に意欲的に取り組んでいる実践者を「林業士」として認定しています。林業士は、その役割や活動年数に応じて「指導林業士」と「青年林業士」に区分されています。

◆指導林業士の役割

指導林業士は、自らの林業経営や木材産業等の活動等を通して資質向上に努めるとともに、林業・木材産業等の知識や技術の普及のほか、青年林業士・林業後継者等の育成指導に当たるものとして、次の事項を実践いただくこととしています。

① 青年林業士や林業後継者等の相

談役、森林施業技術等の指導。

② 県が実施する研修等の指導者の

ほか、指導林家や林業普及指導員等と連携した、林業・木材産業等の知識や技術の伝承。

③ 地域の小中学校の児童・生徒等を対象とした森林・林業教育への

協力。

④ 地域の林業グループ等の育成強化のほか、自らのグループ活動等を通して、林業・木材産業等の魅力発信。

【要件】

① 林業経営等における模範的な施業技術を有する地域のリーダーとして、指導や後継者育成に努めている林業・木材産業経営者及び従事者

② 5年以上青年林業士として活動、または林業・木材産業等の経営に5年以上従事している概ね45歳〜70歳の方

◆青年林業士の役割

青年林業士は、自らの林業・木材産業等に関する知識や技術の向上を

図るとともに、地域における信頼の確保に努め、次の事項を実践いただくこととしています。

① 県が実施する研修等の指導者の

ほか、指導林業士や林業普及指導員等と連携した、林業・木材産業等の知識や技術の研鑽。

② 技術指導のための活動や社会貢献活動への参加。

③ 地域の林業グループ等との連携のほか、自らのグループ活動等を通して、林業・木材産業等の魅力発信。

④ 自ら又は所属事業体における、県立農林大学校生等をはじめとしたインターンシップ受け入れへの協力。

⑤ 地域の林業・木材産業への新規参入者等の相談役、技術等の指導。

【要件】

① 地域のリーダーになろうとする意欲と目標を持ち、将来とも林業・木材産業に就業し、意欲的に取り組む若手の林業・木材産業経営者及び従事者

② 林業・木材産業等に5年以上従事している概ね45歳までの方

◆新規認定者

▽指導林業士5名（うち女性1名）

▽青年林業士2名

◆指導林業士認定者の紹介

會田 幸子氏（山形市）

大江町光林会副会長、県林研グループ連絡協議会副会長を務められ、積極的に研修会等を企画。森林・林業の経営管理や利活用について、女性視点による取組みを企画・実行するなど、地域を興す女性リーダーとして活躍されています。

小野 喜栄氏（真室川町）

真室川きのこ山菜研究会代表として、森林オーナー制度を運営するとともに、町の特産品である原木ナメコ生産の普及指導など、特用林産物の生産振興を中心に林業の推進に尽力されています。

中條 雅浩氏（米沢市）

米沢地方森林組合の技能作業班長として、高度な機械操作技術を活かした地域の森林整備を実施。置賜農業高校や米沢市内の小学校で指導に

あたるなど、林業を通して、地域振興に貢献されています。

諸橋 信忠氏（米沢市）

米沢地方森林組合の事業課主幹として、地域の森林整備を担う中核として活躍。地域の森林に精通しており、現場の状況や環境に基づいた適切な森林施業を所有者に提案するなど、地域森林の適正な管理に務められています。

石井 信夫氏（鶴岡市）

手向生産森林組合の理事として、働き方改善の啓発活動のほか、地域林業者の相談に積極的に対応。15年以上の伐倒経験に基づいた高度技術を有し、所属団体への労働安全衛生の指導に尽力されています。

◆青年林業士認定者の紹介

藤倉 剛樹氏（高島町）

（株）ザオー測量設計に所属し、林道事業の測量、調査、設計に従事。出身校である山形県立農林大学校で、講師アシスタントとして学生指導を行うなど、若手のリーダーとして活

躍されています。

高山 勇樹氏（米沢市）

米沢地方森林組合の事業係長として、森林整備事業や林産事業に従事。現場での素早く正確な状況把握と指示には定評があり、後輩の指導育成を担うなど、地域林業のリーダーとして活躍されています。

◆林業士数（令和5年4月現在）

▽指導林業士 計48名

（うち女性1名）

村山16名、最上7名

置賜11名、庄内14名

▽青年林業士 計41名

（うち女性1名）

村山12名、最上12名

置賜8名、庄内9名

◆おわりに

この度、指導林業士・青年林業士に認定されました7名の皆様、誠にありがとうございます。

今後、地域林業のリーダーとして、ますますのご活躍を期待していきます。

（県森林ノミクス推進課）



令和5年度山形県林業士認定証交付式

令和5年4月20日 於 山形県庁

写真前列：左から、小野氏、會田氏、吉村知事、中條氏、諸橋氏、石井氏

後列：左から、福井森林ノミクス推進課長、高山氏、藤倉氏、地主農林水産部長

「やまがた森の感謝祭2023」 第73回山形市植樹祭を開催しました

【はじめに】

県では、6月の第1土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、6月3日に山形市大字門伝地内において「植樹して自然の恵み みんなの笑顔」をテーマに、第73回山形市植樹祭と初の併催という形をとり、山形市内の森林・林業関係者や緑の幼年団のほか県内各地から森



植栽地（板橋山市有林）

林環境
教育実
践者や
緑の少
年団な
ど360名
ほかに
参加し
た。開
催し
ました。

【式典】
感謝祭では恒例の「前日は大雨」

でしたが、当日は晴れて開催テーマに選ばれた山形市立西山形小6年の伊藤歩優菜さんの紹介から始まり、

主催者挨拶は、吉村知事と佐藤市長が行いました。

そして今年度の表彰は、まず令和4年度に山形県CO₂森林吸収量認証制度で認証された26の企業・団体を代表して、日産自動車販売(株)、日産プリンス山形販売(株)小関代表取締役と(株)山形銀行の横山室長、山形信用金庫の青山常務理事に知事から認証書が授与されました。

次に、令和4年度まで山形市有林管守人として貢献された3名の方を代表して、大友憲一さんに市長から感謝状が贈呈されました。



管守人へ感謝状の贈呈

その後の「森づくり宣言」では、山形市立東沢小学校緑の少年団の3年生6名から、元気いっぱい大きな

声で、森林の大切さと植樹したスギをしつかり育てていく決意が示され、これに対し、市長から「皆さんと共に森を守り、森を育て、森を活かしそして未来へ引き継ぎゼロカーボンシティを目指しましょう」との宣言があり、知事からは「森の恵みを活かしながら『やまがた森林ノミクス』をより一層進めてまいりますよう」といった力強い宣言がありました。



森づくり宣言

【森づくり活動】

山形市森林整備課から植樹の方法について説明のあと、植樹会場へ移動し、山形トヨペット(株)から寄贈された少花粉スギのコンテナ苗1,400本を植樹しました。

植樹の際は、農林大学校1年生などから、作業を補助してもらいな

ら、参加者全員で森づくりを行うことができました。

【森林散策】

午後からは、県民の森において緑の少年団が森林散策を行い、少年団同士の交流を行いました。



植樹の説明



市長の植樹の状況



CO₂認証書を授与されたみなさん



知事の植樹の状況

【おわりに】

県では、県民参加の森づくりをさらに推進するため、次年度に向けて体験型の感謝祭をより充実した内容とすることを目指して、関係者の皆様と協力しながら準備を進めてまいります。

〔県みどり自然課〕



国有林から ブランド材前森スギの供給開始

◆はじめに◆

前森スギが産出される前森山団地は、山形森林管理署最上支署管内の北部（真室川町^{のまき}及位）に位置し、標高785mの前森山を中心に、その裾野に広がる98から103林班の総称で、区域面積約1千ha（うち人工林面積約600ha）に及ぶ団地で、古くは旧陸軍の軍馬場として使用され、大正11年に林野庁へ移管、昭和3年から12年までの9年間で約500haが植栽され、当時は100年生以上の高樹齢材をはじめとする多様な木材を安定的に供給できる木材生産団地を目的に施業が行われてきました。しかしながら、近年は大径材の需要が減少しているのに対し、大径木林分の蓄積は、増加傾向となっているのが現状です。

◆優れた資源の有効活用◆

東北森林管理局の取組事項の一環で民有林からの安定供給が期待しにくい木材の計画的な供給が掲げられています。管内の地域ごとの優れた森林資源を有効活用するため、素材生産事業において出材される優良材を、地域ごとに新たな規格を制定し

ブランド材を推進することとしてい

ます。前森団地は高齢級で大径木が多く、通直な長尺材の生産が可能な団地であるが、その需要が減少している中、従来どおりの採材では、この団地が有する優位性を発揮できません。優良な長尺材の安定供給が可能であるとともに、貴重な資源を有効活用していくには付加価値を見いだす必要があったことから、東北森林管理局が制定している高品質材ブランド規格を満たし、令和4年度より「高齢級国有林高品質材前森スギ」として長尺材（6m以上）の供給を



前森山団地の現況（ドローン撮影）



現地での意見交換会



前森スギの販売（山形城南木材市場）

開始しました。

◆意見交換会の開催・素材販売◆

「高齢級国有林高品質材前森スギ」の供給にあたり、購入者のニーズを把握するため、地元の製材業者、流通関係者、素材生産業者などを対象に意見交換会等を実施しました。

出荷にあたっては、最上支署職員の手により、伐倒・採材指示、各規格のチェックを実施し、合格した材のみが前森スギとして出荷されます。

販売結果は次のとおりとなりました。ブランド材6mが平均販売単価約2万9千円、通常の6m材の平均販売単価が約2万5千円となり、径級が大きいほど価格が上昇する傾向が見られました。単価比較をしても

厳正に各規格をチェックされたブランド材は、通常材より4千円ほど高値で取引されたことから、購入者からも「高齢級国有林高品質材前森スギ」として、認知・評価をして頂けたと受け取っています。

令和4年度に出荷した前森スギ原木は売れ行きも良く、購入者からは、「非住宅店舗等でスギの無垢材を梁桁等に利用する」、「今後もこういった取組を継続して欲しい」などの意見をいただいたところです。

最上支署では、ブランド材の知名度が向上し、林業や地域の活性化につながるよう情報発信すると共に、安定供給となるよう取組みます。

〔山形森林管理署最上支署〕



みどりのページ

令和5年度
緑の環境づくり推進
事業助成金について

ボランティア等が実施する緑化活動は、高齢化や人手不足などの他、新型コロナウイルス感染症の影響による活動の停滞などで縮小傾向にあります。そこで、やまがた森林と緑の推進機構では、森づくりや地域の緑化活動に取り組み担い手を育成するため、活動場所の整備と同時に環境学習に取り組み団体への支援を拡充するための助成金申請区分を設けることとしました。

①都市・農山村の環境緑化整備事業、②都市・農山村の環境緑化維持管理事業を、③森林環境学習推進事業と組み合わせることで、同一団体への助成金額の限度額が上がり、さらに幅広い活動を行うことができるようになります。

本年度の事業については、審査の結果、①都市・農山村の環境緑化整備事業6団体、②都市・農山村の環境緑化維持管理事業42団体、③森林環境学習推進事業7団体が採択となり、計57団体の事業が実施されます。なお、今年度の採択事業は下記のとおりです。

今後も地域の皆さんの緑化活動の支援を続けていきますので、お気軽にご相談ください。
〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕

事業名	内 容	助 成 金 額	
①都市・農山村の環境緑化整備事業	都市・農山村の身近な緑地等の整備を新たに行う (例：植樹等による緑地整備、散策路整備など)	整備事業のみ	上限20万円
		森林環境学習推進事業と組み合わせた申請	上限30万円+上限10万円 (森林環境学習推進事業分)
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業	都市・農山村の身近な緑地等の維持管理を行う (例：樹木の病害虫防除や補植、散策路の刈払いや道標設置など)	維持管理事業のみ	上限10万円
		森林環境学習推進事業と組み合わせた申請	上限15万円+上限10万円 (森林環境学習推進事業分)
③森林環境学習推進事業	地域の「みどり」の大切さの普及啓発活動や人材育成の活動を行う (例：自然観察会、木工教室、調査研究活動の広報など)	森林環境学習推進事業のみ	上限10万円

令和5年度緑の環境づくり推進事業 交付決定一覧表

(単位：千円)

市町村	申請団体	助成額	市町村	申請団体	助成額
①都市・農山村の環境緑化整備事業+③森林環境学習推進事業			金山町	榎台地区公園保全会	100
上山市	中山新町桜を愛する会	383	金山町	羽場地区自治会	87
尾花沢市	清流と山菜の里ほその村	320	米沢市	窪倉豊心会	92
最上町	もがみ科学そうさく隊	169	米沢市	特定非営利活動法人斜平山保全活用連絡協議会	100
①都市・農山村の環境緑化整備事業			米沢市	芳泉町桜の会	84
上山市	YLTクラブ	200	米沢市	芳泉町町内会	100
米沢市	認可地縁団体大字浅川	153	南陽市	岩部山三十三観音保存会	40
鶴岡市	小名部自治会	118	高畠町	飯森自治会	97
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業+③森林環境学習推進事業			高畠町	ぬかのめ桜会	65
山形市	美しい山形・最上川フォーラム	250	長井市	岡原のみ会	60
山辺町	「さがみの里」竹遊会	250	白鷹町	白鷹町立鮎貝小学校PTA	60
寒河江市	慈恩寺共有山林組合	153	飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	100
舟形町	自然のみどりと水に親しむ会	242	飯豊町	お伊勢堂里山再生協議会	100
米沢市	地縁団体万世教育振興会	250	鶴岡市	アツクル	100
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業			鶴岡市	温海温泉自治会	100
山形市	館山会	65	鶴岡市	あつみ湯けむり女子会	100
山形市	長町第九区町内会	100	鶴岡市	櫛引花と緑の会	100
山形市	成安癒しの川(白川)を守る会	100	鶴岡市	昭和通り振興会	100
山形市	山形県林務職員村農同窓会	60	鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	100
天童市	立谷川の花さかじいさん	100	鶴岡市	藤倉山ブナ林保存会	96
山辺町	大蔵棚田さくら公園設置管理運営委員会	100	鶴岡市	模代自治会	100
山辺町	ヒメサユリを植える会	35	鶴岡市	山五十川自治会	73
中山町	天盃泉利用組合	100	③森林環境学習推進事業		
西川町	石田町内会	60	山形市	成沢グリーンフィールド協力隊	100
朝日町	ひめさゆり愛好会	100	山形市	山形県指導林業士会	100
尾花沢市	ニッ森を愛する会	100	上山市	特定非営利活動法人ZA0森の学校	100
金山町	有屋地域公民館連絡協議会	100	天童市	津山の自然を守る会	100
金山町	入有屋地区	75	村山市	榎山愛好会	87
金山町	下野明地区	100	米沢市	特定非営利活動法人なでら山フィールドミュージアム	100
金山町	壮樹会	52	小国町	ひだまり野外活動	100
金山町	榎山を愛する会	83	酒田市	万里の松原に親しむ会	100

令和5年度緑の募金運動スターティングセレモニーを行いました

◆期日 令和5年4月17日(月)

◆場所 やまぎん県民ホール

イベント広場(山形市)

やまがた森林と緑の推進機構では、森づくりや地域の緑化活動などを支援するため、緑の募金への協力を呼びかけています。特に、4月15日から5月14日までを緑の募金強調月間【みどりの月間】として、「緑の募金」を広く県民の皆様にも周知する活動を行っています。

この月間の開始に合わせて「緑の募金スターティングセレモニー」を開催し、緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様への感謝状の贈呈や保育園児による緑のメッセージの読み上げ、ボランティア団体への募金資材の引渡しなどを行いました。今年も「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに、緑の募金運動を展開して参りますので、より一層のご協力をお願いいたします。

◆令和5年度感謝状贈呈団体

株式会社阿部林業、株式会社王祇建設、三協コンサルタント株式会社、株式会社成和技術、有限会社高菊林業、東北電機鉄工株式会社山形支店、株式会社最上振興、山形航空電子株

式会社、株式会社山形道路、株式会社ヤマムラ (敬称略 五十音順)



緑の募金×モンテディオ山形のピンバッジができました！

この度、緑の募金とモンテディオ山形が連携し、モンテディオ山形のマスコット **ディーオくん** が緑の羽根を持ったデザインのピンバッジを製作しました。

このピンバッジは、500円以上の緑の募金に協力をいただいた方に差し上げていますので、詳しくはやまがた森林と緑の推進機構までお問合わせください。

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (R5. 4. 1~R5. 5. 31)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)アイタ工業、(株)青葉堂印刷、秋保建設(株)、(株)朝日測量設計事務所、(株)阿部製材所、(株)阿部林業、安楽城林産(株)、(株)荒正、有賀建設(株)、池田木材(株)、(株)漆山木材店、(株)エヌイーエスコポーレーション、(株)榎本測量設計事務所、(有)遠田林産、遠藤建設(株)、大江設計(株)、大沢林業(株)、(株)太田製材、小笠原建設(株)、(株)沖田木材産業、(株)奥山建設工業所、海藤林産、(株)カキザキ、(株)春日測量設計、(株)金子建設、上山ロータリークラブ、(株)菅野測量設計事務所、(株)北山建設、協和木材(株)新庄工場、(株)工藤測量設計、クリーンサービス(株)、弘栄設備工業(株)、国際ソロプチミスト山形、(株)ザオー測量設計、(株)寒河江技術コンサルタント、寒河江ライオンズクラブ、佐藤建設工業(株)、(株)佐藤工務、(有)佐藤測量設計事務所、サニーヒル菅沢、(有)三英クラフト、(株)サンユー技研、(株)三要、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、JA共済連山形、JA山形おきたまあやめ支店、(福)松寿会、庄内ウッド、(株)庄内銀行長井支店、(株)庄内測量設計舎、白岩土木建築(株)、白鷹ライオンズクラブ、(株)新庄工務所、新庄信用金庫、新庄ライオンズクラブ、(有)真和技建、菅原建設(株)、スズキハイテック(株)、全国協会けんぽ山形支部、JA全農山形県本部、(株)大商金山牧場、大東建設(株)、大和工営(株)、高橋土建(株)、(株)テトラス、(株)出羽測量設計、天童環境(株)、天童市森林組合、天童ロータリークラブ、東光計測(株)、東北ウッドカッター(株)、成沢グリーンフィールド協力隊、東北電力(株)山形支店、東北電力ネットワーク(株)山形支社、永井建設(株)、南陽ライオンズクラブ、(一社)自販連山形県支部、日本政策金融公庫山形支店、(福)敬寿会沼木敬寿園、沼田建設(株)、農林中央金庫山形支店、葉山建設(株)、樋口林業、(有)舟形マッシュルーム、(有)古澤製材所、ブレンスタッフ(株)、(株)北桜林業、(株)北都測量設計、堀川土建(株)、(株)マイスター、(有)マルソー、(株)村山商工、村山ローズロータリークラブ、村山ロータリークラブ、(株)八鍬土建、(有)安野測量事務所、(株)矢作組、(株)山形銀行県庁支店、山形グリーンライフ女性の会、(一社)山形県医師会、山形県環境保全協議会、(公社)山形県看護協会、(公社)山形県観光物産協会、(公財)山形県企業振興公社、山形県(国保連)、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県市長会、山形県市町村職員共済組合、(福)山形県社会福祉協議会、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、(公社)山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、(公財)山形県スポーツ協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体連合会、(公財)山形県埋蔵文化財センター、山形商工会議所、(公社)山形青年会議所、山形東亜DKK(株)、山形トヨペット(株)、JAやまがた、(株)ヤマザワ、(株)ヤマトテック、(株)ヤマムラ、米沢信用金庫、米沢中央ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(株)若松建設、(有)渡部製材所

ご協力ありがとうございました

(敬称略、五十音順)

「やまがた絆の森づくり」事業（資金提供型）について

◆はじめに

やまがた森林と緑の推進機構では、平成22年から県と企業、当機構の三者で協定を結び、森づくり活動による環境貢献と地域交流による里山地域の活性化を図る、「やまがた絆の森づくり」事業に取り組んでいます。

その中で、令和4年度に実施した「資金提供型」の取組みをご紹介します。

◆企業の資金提供による森林整備

「資金提供型」とは、協定を締結した企業様から事業費の一部をご負担いただき、当機構が管理する林地において、間伐等の森林整備を行うものです。間伐で生産した木材は、県内の製材・集成材工場、木質バイオマス発電所に供給しており、間伐の際には、高木性の広葉樹を保存するなど、公益的機能の高度発揮にも配慮した実施を行っています。

また、間伐等の成果について山形県が認証するCO₂吸収量認証により「見える化」が図られることにより、企業様が取組むSDGsにお役立ていただけます。

◆「やまがた絆の森づくり」協定の継続締結

令和4年度には、(株)山形銀行及び、

あいおいニッセイ同和損害保険(株)と協定を継続締結し、協定期間を延長させていただきました。

○(株)山形銀行

第3期として令和12年度末まで9年間の協定を締結しました。

また、昨年9月には脱炭素に向けた取り組みとして、年間のCO₂吸収量400tCO₂を目標に、9カ年で3,600tCO₂をカーボンオフセットとする「やまがた絆の森づくり（やまぎん蔵王国定公園の森）カーボンニュートラル推進協定」を締結しました。



カーボンニュートラル推進協定締結式
「山形銀行」

○あいおいニッセイ同和損害保険(株)
第2期として令和6年度末まで3年間の協定を締結しました。

同社はペーパーレス保険証券やウェブ約款の導入によるペーパーレス

化に取り組みまれており、当機構の森林整備へのご協力のみならず、県内様々な団体の環境保護活動へ寄付されています。



令和4年度事業
「あいおいニッセイ同和損保の森」

◆おわりに

やまがた絆の森協定を締結いただいている企業の皆様には、当機構の森林整備事業にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「やまがた絆の森づくり」事業は、CO₂森林吸収量の「見える化」による企業の環境貢献やSDGsの取組みに寄与することはもとより、分収林経営の改善にもつながることから、当機構としましては、これからも事業の推進に努め、県が提唱する「やまがた森林ノミクス」と「ゼロカーボンやまがた2050」の実現に貢献してまいります。

〔(公財)やまがた森林と緑の推進機構〕

やまがた絆の森づくり事業「資金提供型」一覧

名称	やまぎん蔵王 国定公園の森	ニッサンの森 【朝日白倉】	あいおいニッセイ 同和損保の森 【西川睦合】	PELLET WATARAI エネルギーの森	エルデックの森
協定先	(株)山形銀行	山形日産自動車(株) 日産アノス山形販売(株)	あいおいニッセイ 同和損害保険(株)	(株)渡会電気土木	(株)エルデック
場所	県内13市町村の 分収林地 4453.81ha	朝日町内、Asahi 自然観周辺の分収林地 75.48ha	西川町内の 分収林地 53.8ha	鶴岡市内の 分収林地 173.86ha	酒田市、庄内町内の 分収林地 247.13ha
令和4年度 実績	間伐:46.11ha CO ₂ 吸収量: 411.57t-CO ₂	間伐:28.37ha CO ₂ 吸収量: 246.07t-CO ₂	間伐:15.09ha CO ₂ 吸収量: 148.99t-CO ₂	間伐:11.61ha CO ₂ 吸収量: 82.78t-CO ₂	間伐:19.54ha CO ₂ 吸収量: 204.93t-CO ₂

森の人紹介

里山林を価値ある宝に

西根森づくりの会

代表 芳賀泰典さん



長井市
西根地域
に「葉山」という山がありま
す。地元

住民から「西山」と呼ばれ親しまれているこの山に、想いを馳せる人がいます。

◆目の前で荒廃していく里山林

芳賀さんが区長を務めていた勸進代地区の里山林は、共有林となっており、以前は、地区の方々がそれぞれの貸付地で木を植えて、育て、利用していました。

しかし、里山林は時代とともに利用されなくなりました。

芳賀さんは、荒廃していく里山林を目の当たりにして、何をしたら良いか分からず、何とかしたい想いを募らせていました。

◆転機

この漠然とした気持ちに形を与えてくれたのは、意外にも長井市に移

住してきた若者でした。この若者が

「西山の手入れをしたい」と起こした行動をきっかけに、芳賀さんは西根森づくりの会を設立し、森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業を通して、森林整備を行うという具体的な活動が生まれました。

◆「宝」の山を目指す

勸進代地区だけではなく、西根地域全体で里山の大切さを知るきっかけになって欲しいという願いを込め、同会の名前を「西根森づくりの会」と名付け、長井市や地元団体と協力し木工ワークショップを実施するなど、普及啓発にも取り組むようになりました。

同会の森林整備で得られた間伐材は、バイオマス発電所へ出荷されていましたが、昨年度、初めて、一部を用材として出荷できたそうです。将来的には、若手のメンバーなどの生業として、林業に繋がって欲しいと期待しています。

精神的な価値。資源的な価値。

見出す価値は、十人十色。

ただそこにあるだけではない、「宝」の山にしたい。

そう語った芳賀さんに、西山の新緑はそつと微笑んでいるようでした。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

天童市森林組合

山形県青年林業士

松田泰之さん（天童市）



天童市森林組合

天童市森林組合の総務（兼）業務主任で、青年林業士の松田泰之さんを紹介します。

松田さんは天童市出身で、村山農業高校を卒業後に農業や果樹の苗木を販売する会社などで働いていました。そんな中、知人に頼まれて天童市森林組合の測量や立木調査の手伝いで何度か森林の中の作業を経験するうちに林業に興味を持ち、平成28年に天童市森林組合に就職しました。小さい頃は祖父と一緒に山に出かけて山菜を採っていたこともあり、森林は身近な存在でした。そのため、森林組合に就職するまでは林業との関わりがありませんでしたが、仕事

にはすぐに馴染むことができたそうです。

組合で事務作業から現場作業まで幅広く担当する中で、最近では業務にドローンを活用できないかと考えているそうです。以前、森林所有者から支障木伐採の依頼を受けた際に、伐採の対象範囲をドローンで上空から撮影して決定したところ、作業の省力化だけでなく、森林所有者に対する事業の説明にも大きく役立ったことがありました。そのため、手頃な機器を用いてのスマート林業にも取り組んでいるとのこと。

平成30年からは、組合での仕事に加え木育インストラクターとしても県内各地で積極的に活動しています。趣味の木工を活かし、木工教室の先生として子供たちに木に親しんでもらっています。保育園で木製の箸を作った子供たちが、給食の時間にその箸を大事に使ってくれて嬉しかったそうです。その中で、子供たちへの木育は、大人に山に目を向けてもらう種まきではないかと考えるようになったとのこと。

これからも地域に密着した林業と木育を通して、より多くの人に森林に興味を持ってもらいたいと話してくれました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

クマハギ被害マップの活用による 防除のための被害予測

◆被害発生状況

本県のツキノワグマ剥皮害（以下、クマハギ）（写真1）は、春から夏にかけてスギを中心に発生します。被害木は腐朽等により価値が低下し、幹の全周が剥皮された場合は枯損するなど、林業経営に甚大な影響を与えます。令和4年度は、16市町村で推定実損面積約48haの被害が確認されました。また、過去に被害が無かった地域でも新規発生が確認されています。



写真1 クマハギ被害木

◆新たなクマハギ被害調査方法と被害マップ

資材や薬剤等による被害対策を行うためには、被害位置と被害程度の把握が必要不可欠です。過去の被害調査は、地図を基に特定地域を巡回

し、被害地と本数を紙図面上に点的に記録して行いました。しかし、全県の効果的な調査、結果の効率的な共有のため、新たにタッチパネル式GPSを使用し、GISを用いて可視化することにしました。また、被害

は、剥皮を行う習性のある個体の移動により拡大していきます。その移動範囲は広いいため、これまでの点的な被害把握より面的な把握が効果的です。そこで、被害位置図は1kmメッシュ単位とし、本数に応じて被害程度を3段階（黄、桃、赤）で表示することとしました（図1）。

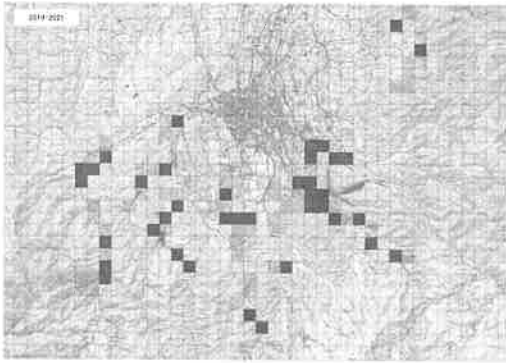


図1 クマハギ被害マップ

隣接	隣接	隣接
隣接	新規メッシュ	隣接
隣接	隣接	隣接

図2 メッシュの定義

被害メッシュは、約70%以上が枯損本数の少ない被害度1である。

◆被害マップを使用した被害予測

被害発生林分の防除対策より、さらに進んだ対応として、予防的防除があります。予防的防除を行うためには、モニタリングによる被害発生後の状況把握だけでなく、次の被害発生地となる可能性が高い箇所を予測できる手法が必要となります。そこで、上記の手法で作成した被害マップを使用し、翌年以降の被害方向を予測する手法について検討しました。新たに発生した被害地点（以下、新規被害メッシュ）と、過去に被害が発生した地点（以下、既被害メッシュ）の位置関係や被害程度を解析した結果、以下の3つが明らかになりました。①新規被害メッシュの大半が既被害メッシュに隣接して発生する（図2、図3）、②被害メッシュが1つでも発生した時点で、隣接するメッシュは、次年度以降被害メッシュになる可能性が高い、③新規被害メッシュは、

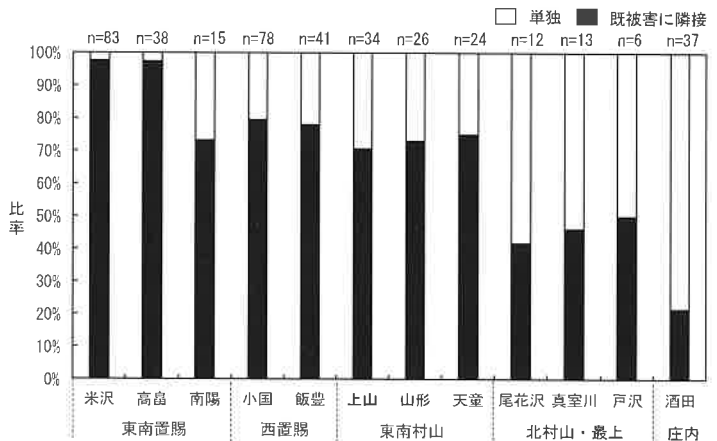


図3 新規被害メッシュと既被害メッシュの位置関係

以上より、毎年冬に作成された被害マップを確認し、既被害メッシュが1つでも発生している場所の隣接箇所では、積極的な予防対策を進めることが望ましいと考えられます。

◆最後に

森林研究研修センターでは、令和5年度末に、上述したクマハギ被害予測と被害防除手法をまとめ、マニュアルとして公表する予定です。

〔森林研究研修センター〕

令和5年度 第8期生入校

◇はじめに

今年4月13日(木)に、県内外からあわせて7名の第8期生が入校しました。入校から約2カ月が過ぎて、学生たちは、講義や実習を通して森林・林業について積極的に学んでいますので、講義や実習の様子などについてご紹介します。

◇多岐にわたる学習科目

林業経営学科で学ぶ科目は「造林・育林」、「森林生態」、「森林保護」、「樹木」、「森林計測」、「林業機械」、「林産(特用林産)」など14科目と多岐にわたっています。これら各分野に関する幅広い知識と技術、高い専門性を備えた地域の森林・林業を担うリーダーの育成と地域の森林経営をブラッシングできる経営力を合わせ備えた人材育成がこの学科の目標です。

入校式翌日の14日(金)から始まった授業では、森林・林業の基礎知識に関する講義、森林計測(林分調査)の基礎実習やチェーンソーの基本操作実習、労働安全管理と救命救急等を実施してきました。

学生の中には、林業に関する知識

を少し持った学生もいますが、ほと

んどは、森林・林業の科目に接するのは初めてで、毎日出てくるこれまでに聞いたことのない専門用語に悪戦苦闘する一方、初めて目にする林業独自の機械・器具類には、興味津々です。学生1人に刈払い機とチェーンソーが一台ずつ配備されていますが、特に伐木の基本となるチェーンソーの分解、メンテナンスの実習には時間をかけて取り組んでいます。6月からは、講義・実習とも、いよいよ各科目の各論に入り、実践的な内容となっていきます。

◇講義と実習のバランスが大切

森林・林業を学ぶためには、森林を整備する技術だけでなく、さまざまな分野について理解を深める必要があります。実技の習得には、講義においてその仕組みや目的を十分に理解する必要があり、講義において知識を深めたとしても、実技を伴わなければ実践的とは言えません。そのため教育計画の設定にあたっては、講義と実習のバランスを大切にしています。これから、林分調査や間伐

設計、測量をはじめとする実践的な実習のほか、林業機械に関してはチェーンソーや高性能林業機械の特別教育、小型移動式クレーンや玉掛けなどの技能講習と、資格取得のための教科も出てきます。2年間という短い課業の中で、「知識×技能×技術」を習得するために学習を進めていきます。



第8期1学年7名 機材庫前での集合写真

◇寮生活で得られるもの

学生7名は、他の学科の学生とともに、全員、寮での共同生活を送っています。森林・林業という共通の目的を持って入校した学生は、寮においても森林・林業や就職に関する

話題について意見を交わしているようです。寮生活において得られるものは想像以上に大きいと思います。



学校実習林等での実習状況

◇適地適木

2年間の課業で習得できるものには限りがありますが、学生に伝えたいのは、「自然の法則を学び、その法則に従った技術を身につけること」、簡単に言えば、「適地適木」です。また、何よりも大切なのが、「事故や怪我なく卒業すること」が一番の目標です。

これからも、随時、講義や実習の様子をお知らせいたしますので、皆様からのご指導等をお願いいたします。〔山形県立農林大学校〕

村山地域の山火事防止の取組について 「村山地域山火事防止啓発ウィーク」を実施

◆はじめに

村山総合支庁では、県民の貴重な財産である森林を火災から守るため、山火事多発時期にあたる4月から5月末日までを山火事防止月間とし、山火事防止啓発活動を行っています。山火事防止期間中に実施した、「村山地域山火事防止啓発ウィーク」の取組について報告します。

◆実施状況

期 間 令和5年4月13日(木)
～令和5年4月19日(水)

場 所 村山地域全域

参加者 管内市町、管内消防本部、管内森林組合、山形森林管理署、やまがた森林と緑の推進機構、村山総合支庁

活動内容

参加する29団体がそれぞれ所管する地域において、全国統一標語である「火の確認 山を愛する あなたのマナー」を掲げ、多くの県民の皆様に向け山火事の未然防止について巡回車により広報活動を実施しました。

村山総合支庁では、13日の「村山

地域山火事防止啓発ウィーク」出発式後に山形市から村山市方面を巡回・広報しました。今年例年より雪解けが早く、乾燥した日が続いたことから、県内で多くの山火事・原野火災が発生しました。巡回・広報により、地域住民の山火事防止意識が向上し山火事の発生がなくなるよう取組を続けてまいります。



巡回の状況

◆おわりに

山火事が多発する時期は過ぎましたが、今後とも火の取り扱いには十分にご注意願います。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

白炭窯「くど」調整機の開発について

今回は、前号で木炭生産者の柳沢悟さんに情報提供をしていただいた白炭窯のくど調整機について紹介します。なお、「くど」とは炭窯の排煙口のことで。



図1 炭窯の模式図

- 1 窯詰め(木くべ)・窯の大きさに合わせて切りそろえたナラなどの広葉樹を窯の中に詰め込む。
- 2 口焚き・窯口で火を焚いて、窯の中を熱して原木の水分を抜く。
- 3 焼火・窯内の原木の水分が抜け、火が着く(炭化)。炭化が始まったら、窯口をふさぐ。
- 4 精錬(ねらし)・炭化が終了したら、窯口を開け空気を大量に入れて樹皮等の不純物を燃やす。
- 5 窯出し・真っ赤になった木炭を

最初に、

白炭の炭焼き工程について説明します。一般的な製造工程は次の通りで、1か

- 6 消火・引き出した炭に灰と砂を混ぜた素灰をかけて消火する。



図2 くどひきくん設置状況

今回、紹介するくど調整機は、4の精錬(ねらし)の作業を軽減する装置です。精錬は、窯口を開けて終わりではなく、「くど」を約1時間おきに数センチずつ開ける必要があります。そのため、何時間も拘束されることから、柳沢さんは、機械の開発をしているmesに相談し、炭窯用自動くど引き装置(くどひきくん)を共同で開発しました。この装置は、くどの蓋を自動で引く張るシンプルなものですが、引く距離や時間をかなり細かく設定でき、個々の炭窯の状態に合わせて調整できるそうです。柳沢さんによると、精錬作業の負担を軽減できる上、以前と変わらない品質の白炭を生産できるとのことでした。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

遊学の森オリジナル体験プログラムを開発

県内4つの県民の森では、地域や施設の特徴を活かし、それぞれ木育の拠点として整備を進めており、遊学の森（金山町）においては、木育活動に必要な丸のこ、ベルトディスクサンダー、レーザー彫刻機等の機材・工具類を導入しました。この度、それらを活用し、遊学の森の利活用を促進するため、令和4年度に『木とのふれあい』をテーマにしたオリジナル体験プログラムの開発検討会を設置し、委員を有限会社ワンツー（舟形町）、指定管理者であるグリーンバレー神室振興公社、金山町産業課、遊学の森案内人会、最上総合支庁森林整備課とし、検討を行いましたので、その成果を報告します。

今回の体験プログラム開発では、地域材を活用すること、既存のプログラムと同程度の時間で実施可能であること、既存の機材で作成可能であることを条件とし、計16種類のプログラム案が委員から提案されました。委員による検討の結果、

① スギ材を活用したスマホスピーカースタンド

② スギ材を活用した箸と弁当箱
③ スギ、シナノキ、オニグルミ、ホオノキ及びビイチョウ材を活用した
カッティングボード
の3種類のプログラムをワークショップで検証することとしました。

3月5日（日）に開催したワークショップでは、各プログラムの提案者が講師（案内人役）となり、難易度、時間、説明、使用機材等が適当であるかを森の案内人の皆様から評価、検証していただきました。

結果、3プログラムとも好評であり、「今後、遊学の森の木育ワークショップで行いたい」という声がありました。一方改善点としては、「弁当箱に使用する食器用途の特殊ボンドの説明資料が欲しい」、「カッティングボードは複数樹種を選択できるが、樹種の特徴や主な用途の説明資料が欲しい」、「スマホスピーカースタンドは、スマホサイズに応じ、キットのサイズが複数欲しい」、等の要望がありました。

このことを踏まえ、3種類の指導者用マニュアルを作成し遊学の森案内

案内人会へ提案しました。

新たなプログラムを開発したことで、『森の案内人』の活躍の場が広がるとともに、利用者が増えるきっかけの一つとなることが期待されます。また、遊学の森では、毎週金曜日を「木育day」と位置づけ、今回開発したプログラムも体験できるようにしておりますので、是非、遊学の森HPをご覧ください。

〔最上総合支庁森林整備課〕



遊学の森HP
『木育day』



開発検討会の状況



スマホスピーカースタンド



弁当箱づくり



カッティングボードづくり

庄内地域の山地災害危険地区への取組み

◆はじめに

令和4年12月31日に鶴岡市西目地区で土砂災害が発生し、2名が亡くなるという甚大な被害が発生しました。

それを受け鶴岡市では、関係機関や地域住民合同で土砂災害警戒区域の緊急現地調査を実施し、山地災害を未然に防止しようとする危機意識が高まっています。

◆山地災害危険地区とは

山地に起因する山腹の崩壊（山腹崩壊危険地区）、地すべり（地すべり危険地区）、崩壊土砂の流出（崩壊土砂流出危険地区）等により、学校、病院等の施設や人家等に直接被害を与える恐れがある地区で、地形、地質特性等からみて、その崩壊危険度が一定の基準以上のものを国（国有林）及び都道府県（民有林）が調査・設定したものです。

また、山地災害危険地区は、
①治山事業実施箇所選定や優先度の判断資料

②市町村における警戒避難体制の整備のための基礎情報
として活用されています。

◆庄内地域の山地災害危険地区

①山腹崩壊危険地区102箇所

②地すべり危険地区58箇所

③崩壊土砂流出危険地区376箇所

となっており、山地がある全市町に存在しています。

そのため、山地災害の未然防止と早期発見のため、年度当初に職員が目視等により危険地区の点検を実施しました。

◆連携した危険箇所合同点検

山地に関する危険な箇所は、山地災害危険地区のほか、土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域等、目的に応じて調査・指定された区域が混在しています。

鶴岡市では今年度4月から5月の9日間で、市内各地の危険な箇所を所管する各機関、救助等を所管する消防、警察機関及び自治会長をはじめとした地域住民等が合同で点検を行いました。

点検では危険地に近接した住民から危険箇所の経緯や近況、不安点等の説明があり、それに対して参加した技術者からは、山腹斜面や構造物、水量の変化、異音等、災害の危険信

号を察知するポイントのアドバイスがありました。



合同点検の状況

また、学識経験者等からは、「全ての危険な箇所に構造物等のハード対策をするには時間がかかることから、すぐにできるソフト対策として、避難経路の確認や、自治会ほか隣近所同士での安否確認や協力が重要。家屋外に避難しない場合でも、家屋内で1階から2階への垂直避難、山側等危険箇所から反対側への水平避難も有効である。」等のアドバイスがありました。

◆おわりに

例年、危険箇所合同点検の参加者は地元自治会長と隣接住民のみでし

たが、今年度は危険な箇所付近の近隣住民も参加しました。参加者からは、「近くにこんな危険な箇所があったのを初めて見た。」等の声も聞かれました。

また、現地点検後、各コミュニティセンター等で自治会長ほか地元住民も参加した振り返りが行われ、改めて防災に関する意識が共有されました。

今後も防災・減災が図られるようハード、ソフト両面から取り組みを進めてまいりますので、関係者の皆様の御協力をお願いいたします。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



振り返りの状況

山形県の古木・名木 138

かみくらやま

上倉山のクロベ

朝日町上倉山



2時間ほど登り、最初のピークである上倉山を過ぎた所にクロベへの案内板があります。そこで登山道を右にそれ、ピンクテープに導かれてヤブを進むと大きなクロベが現れますが、それではありません。更に進むと堂々たるクロベの前に出ます。幹周9・27m、樹高20mで見えるものを圧倒します。2時間の登りは大変きついです。苦しい登りを忘れさせてくれる素晴らしい巨樹です。是非見に行ってください。

〔山形県森林協会〕

(案内略図)



今回は朝日山系上倉山のクロベの巨樹を紹介します。林野庁が次世代への財産として残すべき日本の巨木として選定した「森の巨人百選」に選ばれています。クロベは日本特産のヒノキ科の常緑針葉樹で、ネズコとも呼ばれています。

上倉山のクロベは、朝日鉱泉から朝日岳への登山コースである御影森山コースを

“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林 GIS 等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人 **山形森林調査協会**

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
E-mail : yfi@kfa.biglobe.ne.jp

パスコは、森林・林業の課題を先端ICT技術で解決します！

航空レーザ計測

地形・樹高・樹冠を3次元計測し
計画立案、森林管理を支援

森林クラウドシステム

簡単なサービス
効率的な情報共有を支援

森林資源解析 (AI解析)

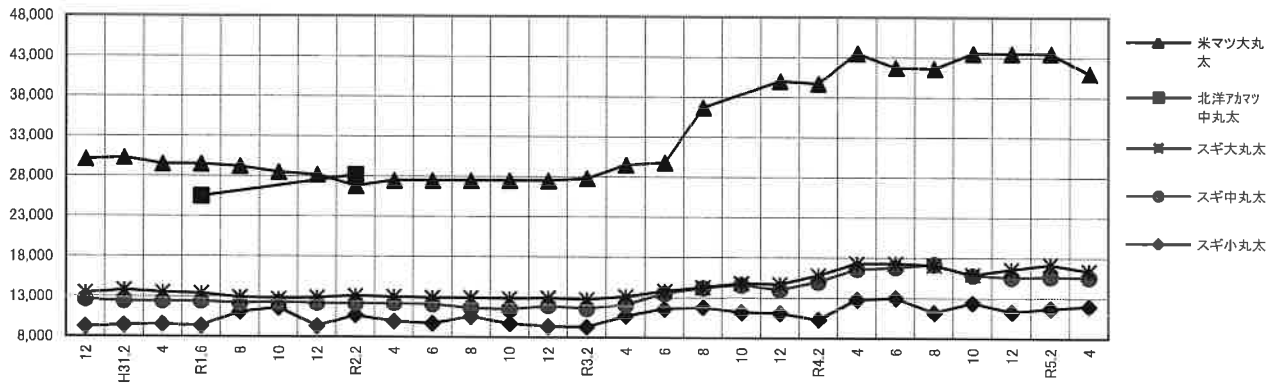
樹種判別・森林資源量における
現地確認を省力化



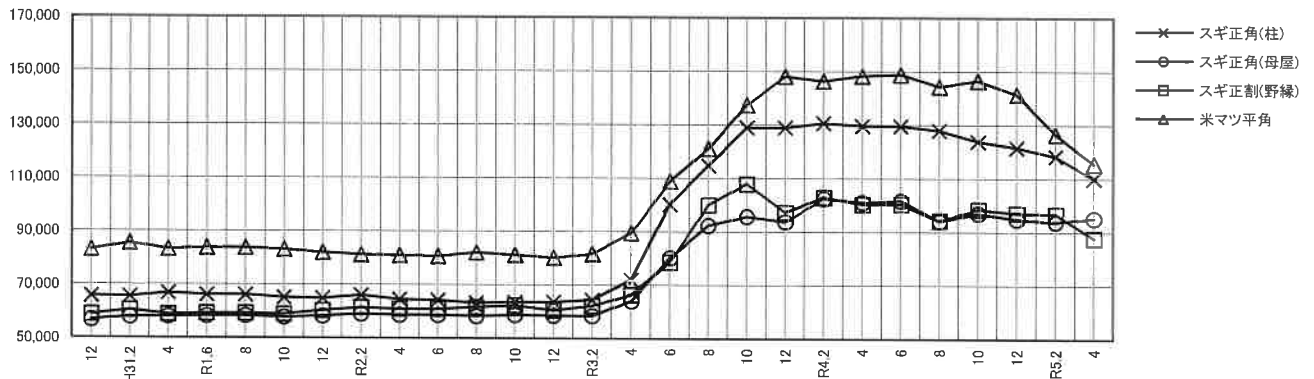
株式会社パスコ 山形支店

〒990-0039 山形県山形市香澄町一丁目19番5号
Tel : 023-624-7271 www.pasco.co.jp

丸太価格の推移



製材品価格の推移



令和五年七月一日発行 (隔月発行)
 編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

山形県農林水産部
 印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円

林業の仕事してみませんか？ 林業の求職・求人受付中！

やまがた森林と緑の推進機構(山形県林業労働力確保支援センター)では、新規の林業就業者の確保を強化するため、林業分野における無料職業紹介所を開設しました。山形県内の林業事業者で働きたい方と面談の上、スキルや経験、就労に関する希望をお聞きし、山形県内の林業事業者への紹介など、採用に向けたお手伝いを行います。

《お問い合わせ》



公益財団法人 もり
 やまがた森林と緑の推進機構

山形県林業労働力確保支援センター

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
 TEL 023-666-6348 FAX 023-688-6634
 E-mail gcenter@jan.ne.jp